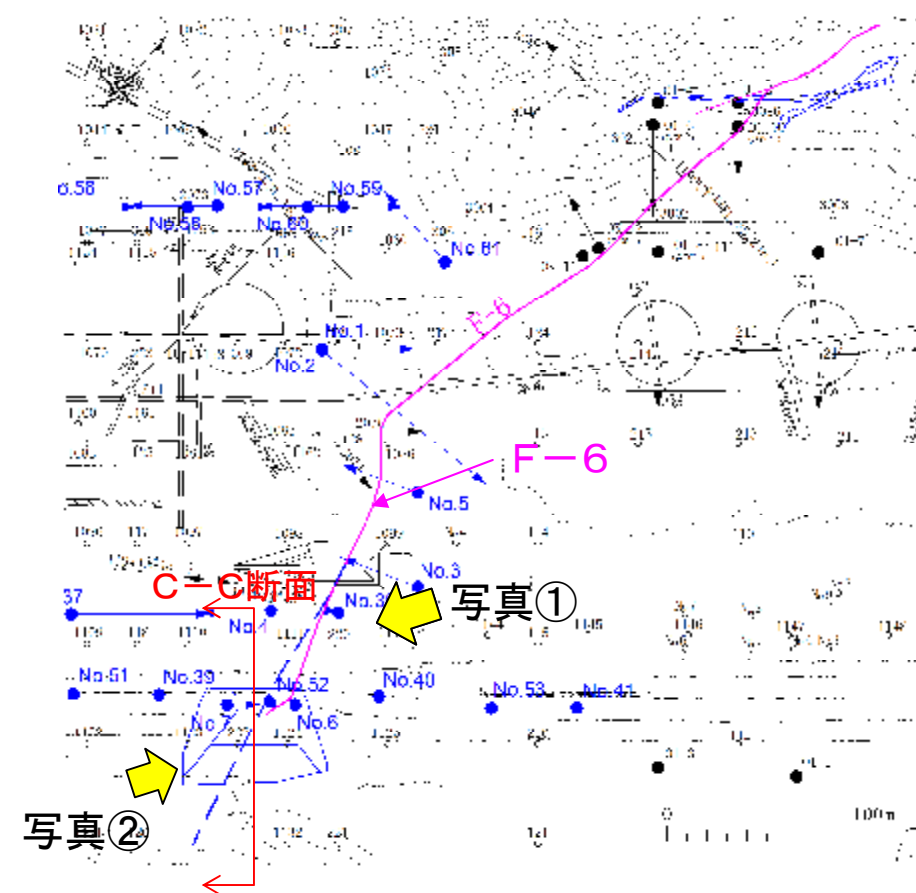


大飯発電所敷地内 南側におけるトレンチ調査状況の概要(速報)

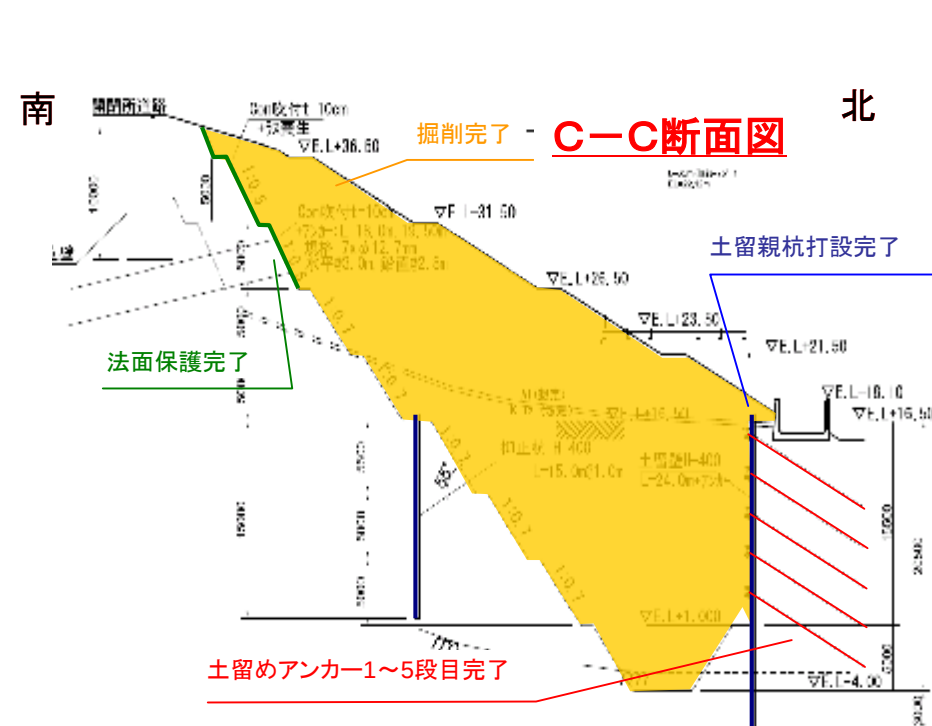


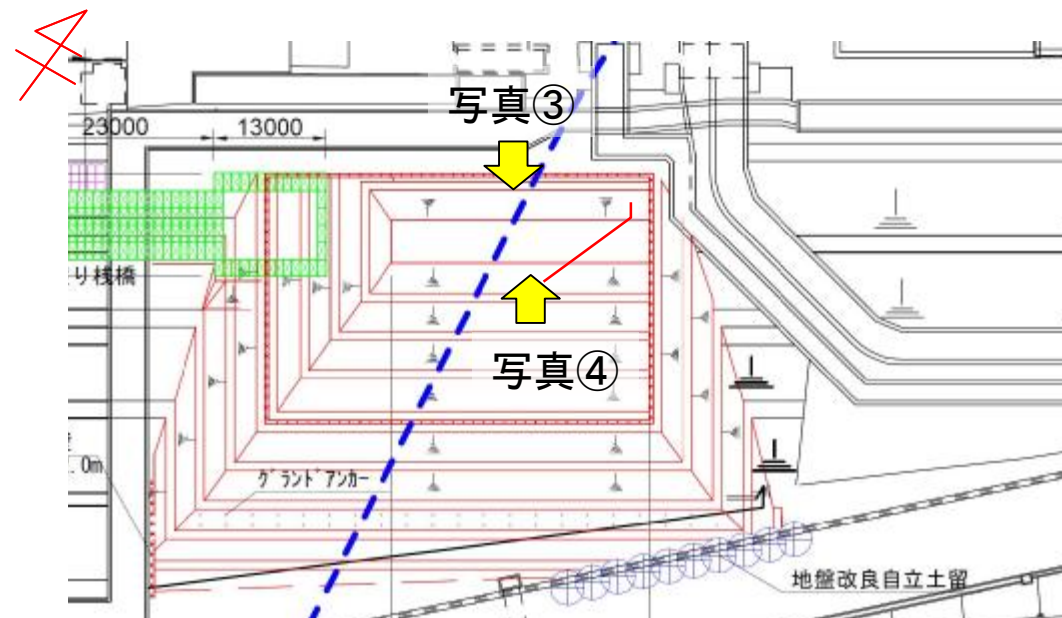
写真①



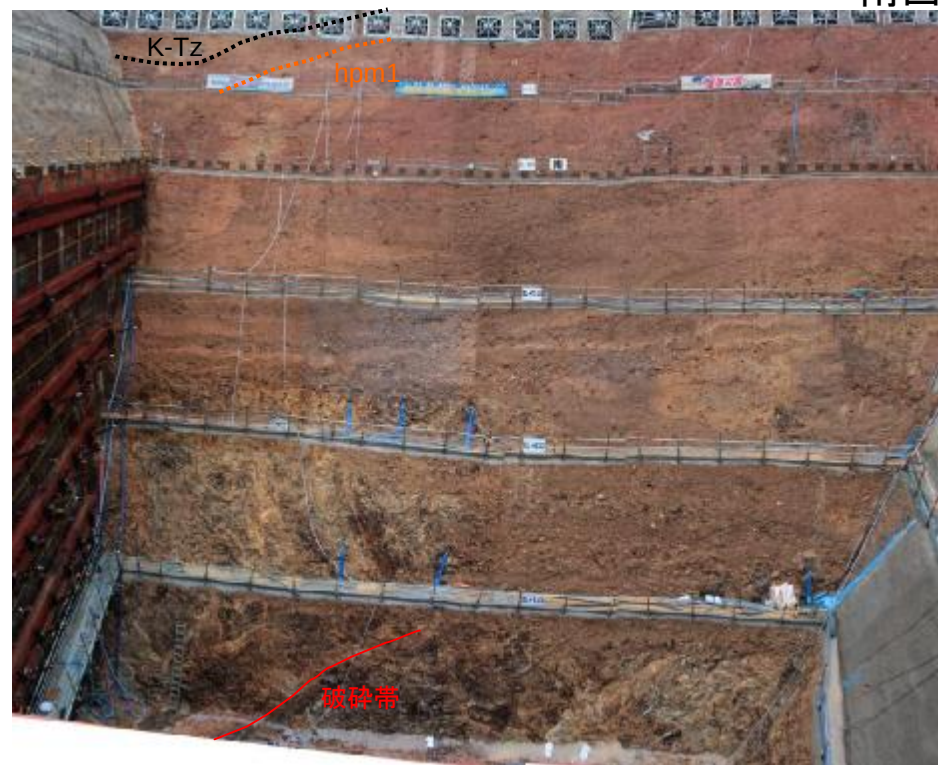
トレンチ概要
長さ 約70m
幅 約50m
深さ 約40m

写真②





←北東



写真③(南側法面)

南西→

3段目
4段目
5段目
6段目
7段目
8段目
底盤

堆積層

岩盤



←南西

北東→



写真④(北側法面)

- ・トレンチ基盤岩中には複数の破碎帯が確認されたが、このうち、トレンチ東端で確認された破碎帯は、走向傾斜(東端北壁位置で走向がN8~12W、傾斜が70~72E)、最新活動時の運動センス(右横ずれ、正断層センス)がF-6破碎帯の特徴と一致していることを確認した。
- ・これらの破碎帯のいずれも上位の地層に変位・変形を与えていない。
- ・南側斜面の4段目付近(EL+20m付近)より上に、K-Tz火山灰(約9.5万年)、hpm1火山灰(約23万年前)を確認したことから、少なくとも後期更新世以降の活動はない。